

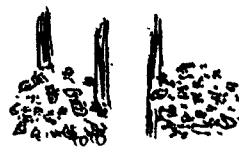
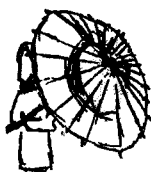
ぶどうの木



第216号 2021年 6月号

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2021年 5月23日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田3-37-7
TEL: 03-3414-5772
FAX: 03-3414-5778



『人に成長を与える霊』

牧師 広田叔弘

五旬祭の日が来て、一同が一つになつて集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かればかれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

使徒言行録 2章1～4節

弟子たちの集まりに聖霊が降ります。すると彼らは知らないはずの外国語を話し始めました。出来事の背景にあるものは、創世記に記されているバベルの塔の物語です。

世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シナルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。

彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しつこいの代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。(創世記11章1～4節)

人々は高度な技術を手に入れました。天まで

届く塔を建て、神をも追い抜こうと計画しました。ところがこの企ては挫折します。互いの言葉が通じなくなってしまうのです。原因はエゴです。神を畏れなくなったとき人は、隣人を重んじることがなくなりました。「俺が、俺が」の思いがぶつかって、互いの言葉が通じなくなつたのです。

聖霊が降つた弟子たちは知らない外国語を話し始めました。これは、「言葉の通じない現実を乗り越えた」という意味です。神さまを畏れず、隣人を大切にしないことが罪です。この結果人は孤独になります。聖霊の働きは、人に信仰を与え、隣人に対する温かい気持ちと回復させます。罪ある現実を克服して、互いの間に通じる言葉を生み出すのです。

「聖霊の働いて何ですか？」問われることがあります。働きの大きな一つは、「人を変えろ」とことだと思えます。神さまを信じられなかった自分が、信じています。他人に関心のなかった私が、隣人の幸いのために祈っている。変えられることは成長が与えられることです。弟子たちは、一生の時間をかけて他者に通じる言葉を獲得していったのでしょうか。私たちも同様です。神さまに問いつつ何が最善かを探します。目の前にいる隣人に心を開いて届く言葉を見つけていく。聖霊の働きのよって、私たちに成長が与えられていきます。